

【資料3】

第2回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議資料

平成27年2月10日

平成27年度仁淀川地域アクションプランの追加項目等について

平成27年度 仁淀川地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成26年度)	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		12	13	10	10	8	15
1	仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上		●	●	●	●	●
2	地域を支える基幹品目の振興			●	●	●	●
3	薬用作物の産地拡大による所得の向上			●	●	●	●
4	力強い高糖度トマト産地の確立			●	●		●
5	JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化	●					
6	加工用ワサビの加工の促進	●					
7	土佐文旦の加工	●					
8	生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)	●					
9	いの地域における園芸産地の維持・発展		●				
10	集落営農の推進		●				
11	本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発		●				
12	農業振興ネットワークの構築による地域の活性化						●
13	仁淀川流域における木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
14	特用林産物の販売拡大	●	●	●	●	●	●
15	うるめのブランド化	●					
16	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●				
17	集客施設を核にした高岡地区の活性化	●					
18	いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化		●				
19	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
20	備フーズブランドを中心とした農山村6次産業化の推進			●			
21	売れる商品づくりによる地産外商の推進				●		
22	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化						●
23	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)						●
24	企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)						●
25	直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化						●
26	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
27	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大			●	●	●	●
28	交流施設の整備による新居地区の活性化	●					
29	体験型観光・食観光の推進	●					
30	体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり		●				
31	山岳資源を活用した交流人口の拡大		●				
32	観光情報の一元化とおもてなし観光の推進			●			
33	歴史的風致維持向上計画の推進				●		
34	越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進					●	
35	屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化						●
36	国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化						●
37	生姜等加工品製造施設整備事業		●				

土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	改定案(平成27年度)
	●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上
		●	●	●	●	2	地域を支える基幹品目の振興
		●	●	●	●	3	薬用作物の産地拡大による所得の向上
		●	●		●	4	力強い高精度トマト産地の確立
●						5	JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化
●						6	加工用ワサビの加工の促進
●						7	土佐文旦の加工
●						8	生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)
	●					9	いの地域における園芸産地の維持・発展
	●					10	集落営農の推進
	●					11	生姜等加工品製造施設整備事業
	●					12	本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発
					●	13	農業振興ネットワークの構築による地域の活性化
●	●	●	●	●	●	14	仁淀川流域における木材産業の振興
●	●	●	●	●	●	15	特用林産物の販売拡大
追加			●			16	自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化
●						17	うるめのブランド化
●	●					18	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
●						19	集客施設を核にした高岡地区の活性化
	●					20	いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化
	●					21	地域産品を活用した冷蔵等の製造販売
		●				22	㈱フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進
			●			23	売れる商品づくりによる地産外商の推進
					●	24	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化
					●	25	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)
					●	26	企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)
					●	27	直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化
●	●	●	●	●	●	28	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
		●	●	●	●	29	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大
●						30	交流施設の整備による新居地区の活性化
●						31	体験型観光・食観光の推進
	●					32	体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり
	●					33	山岳資源を活用した交流人口の拡大
		●				34	観光情報の一元化とおもてなし観光の推進
			●			35	歴史的風致維持向上計画の推進
					●	36	越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進
					●	37	屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化
					●	38	国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化

仁淀川地域アクションプランの追加（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業の概要
1	No. 16 自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化（佐川町） 【実施主体】佐川町、自伐型林業に取り組む個人・団体	自伐型林業を核とした産業づくりを推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出と人材育成を目指す。

有望素材シート（27年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	佐川町	素材名	自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化
		関連素材	
現状・課題	<p><現状> 森林率70%を超える佐川町は、ほとんどの山林が伐期を迎えているが、木材価格の低下や林地未集約等により、伐採販売しても伐出コスト等を差し引くと森林所有者にほとんど利益が出ない状況である。こうしたことから、森林所有者の積極的に山林経営を行うという意欲が失われつつあり、間伐等の森林管理さえも十分に実施されていない。 間伐などの育林作業が不十分であれば、立木が育たないうえ、日光が届かず下草が育たない暗い森林では土砂災害の発生を招きやすくなるなど、自然環境の観点からも悪影響が出ている。 当町では平成26年度から、自伐型林業の推進役として地域おこし協力隊5名を雇用し、町有林をフィールドに自伐型林業の施業リーダー養成のための研修を実施するとともに、地域住民を対象に技術研修を実施しているところである。</p> <p><課題> ①多くの森林が適正に管理されておらず、森林の多面的機能が失われつつあり、自然環境が悪化している。 ②山林経営で収益を得ることが困難であり、林業従事者の育成が進まない。 ③構造材以外の間伐材等の利活用が進んでいない。</p>		
今後の方向性	<p>環境保全型林業である自伐型林業を推進し、森林環境の健全化、雇用及び所得の増大を目指す。</p> <p>① 自伐型林業を中心とした経営スタイルの確立を目指す。 ② C材の利活用促進を図り収益の向上を目指す。 ③ 木材を活用したもののづくりを進め自伐型林業と地域経済の関連性を強化する。 ④ 環境保全としての森林経営の観点から学校教育との連携を図る。</p>		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み（2）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化				
	関係市町村名	佐川町				
事業の概要	<p>自伐型林業を推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出を目指す。</p> <p>① 自伐型林業を中心とした経営スタイルの確立 地域おこし協力隊の採用、研修の実施等による人材育成と併せて、自伐型林業を推進するための環境整備を実施し、山林を所有していなくても森林の経営や管理、搬出間伐等を自らおこなうことで、自伐型林業を生業とする人材のモデルケースをつくる。</p> <p>② C材の利活用促進による収益の向上 バイオマス燃料としての活用拡充を図るため、販路の確保・拡大を目指すほか、薪の需要喚起など木質燃料の利用促進を実施する。</p> <p>③ 木材を活用したもののづくりの推進による地域経済の活性化 地域の木材を地域でデザイン・加工・製造することで、所得の向上、木材需要の創出を図るとともに、自伐型林業を地域経済の循環に組み込み、関連事業も併せて創出する。そのためにものづくりの拠点を整備（デジタルファブリケーションツールを活用）する。</p> <p>④ 学校教育との連携 自伐型林業を地域の産業とするため、学校教育との連携を環境保全・産業振興・ものづくりの観点から進める。</p>					
事業主体等	【事業主体】 佐川町、自伐型林業に取り組む個人・団体	【関係機関】 NPO法人 土佐の森・救援隊 小中学校・高等学校・県内大学 集落活動センター				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H27】	1年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以降】	
	自伐型林業による経営スタイルの確立と低質材活用の促進	地域おこし協力隊採用 山林の集約化（アプリ開発） 研修の実施 仮設中間土場の整備運営 バイオマス燃料の販路確保 木質燃料利用促進補助金の創設	地域おこし協力隊採用 山林の集約化（アプリ開発） 研修の実施 中間土場の整備本格運営 バイオマス燃料の販路拡大	第1期協力隊自立（起業） 地域おこし協力隊採用 山林の集約化（アプリ開発） 研修の実施 中間土場の運営 バイオマス燃料の販路拡大	第2期協力隊自立（起業） 地域おこし協力隊採用 山林の集約化 研修の実施 中間土場の運営 バイオマス燃料の販路拡大	
	木材を活用したもののづくりによる雇用創出・地域活性化	デジタルファブリケーションツール（DFT）の一部導入 ものづくり拠点整備 木材地域通貨券発行	DFT本格導入 ものづくり拠点運営 ものづくり専門家招聘 起業支援	集落活動センターへのDFT導入 起業支援	ものづくり拠点及び集落活動センターでのものづくり 起業支援	
学校教育等と連携した人材育成	学校教育での環境学習 体験学習プログラム化	学校教育での環境学習 町有林等へ体験学習受入 学校教育へのDFT導入 佐川ものづくり大学試行	学校教育での環境学習 地域おこし協力隊が集落活動センター等へ体験学習受入 学校教育へのDFT導入 佐川ものづくり大学運営	学校教育での環境学習 地域おこし協力隊が集落活動センター等へ体験学習受入 佐川ものづくり大学運営		
指標・目標	項目	事業実施 【H27】	1年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以降】	
	新規雇用者数	5	6	12	12	35
	【設定根拠】	【推計の考え方】 地域おこし協力隊（林業） + 地域おこし協力隊（集落活動センターものづくり） + 林業起業による雇用 + ものづくりによる起業				
		【考え方】				
総事業費等	総事業費	577,000千円（うち27年度 122,000千円） （内訳 国：253,000 県：72,500 市町村：251,500 その他：）				
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国：特交措置・社会資本整備総合交付金・地方創生交付金；県：産振総合補助金・観光拠点補助金・集活センター推進事業費補助金 その他：				
備考						

追加項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化 《佐川町》	自伐型林業を核とした産業づくりを推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出と人材育成を目指す。	・佐川町 ・自伐型林業に取り組む個人・団体			◆自伐型林業の確立 ◆低質材の活用促進 ◆木材を活用したもののづくりの推進 ◆学校教育等と連携した人材育成

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
			自伐型林業の確立 地域おこし協力隊の採用	地域おこし協力隊の採用と その自立化	林業関連新規雇用者 数	5人
			山林の集約化と集約アプリの開発			
			自伐型林業研修の実施			
			低質材の活用促進			
			バイオマス燃料の利用促進と販路拡大			
			中間土壌の整備と運営			
			木材を活用したものづくりの推進			
			ものづくり拠点の整備・運営			
			デジタル加工機の導入・活用			
			低質材を活用した木工品の開発、販売			
			学校教育等と連携した人材育成			
			環境教育の実施			
				学校教育への加工機導入・活用		
				佐川ものづくり大学開設・運営		

修正項目(案)

【仁淀川地域】



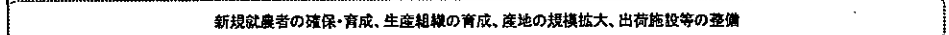
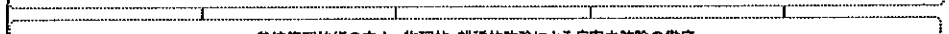


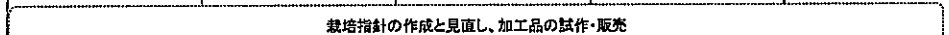
項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
2地域を支える基幹品目の振興 《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》	中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。	・JAコスモス ・JAコスモス各生産部会 ・越知町山椒生産組合	・栽培技術の向上、安定的な生産の維持(H21～25) ◆ニラでは施設整備による生産体制が整いつつある。また、新規就農者や新規栽培者の確保・育成も行われており、今後の販売額増加が期待される。 ピーマンでは適期苗定植や病害虫防除など、基本技術徹底の必要性が理解された。 ショウガでは土壌消毒剤としてダゾメット剤とクロルピクリンが定着してきた。 ・山椒の安定的な栽培技術の確立、加工品の開発と販売(H21～25) ◆さび病防除対策の目途を立てることができた。収穫作業労力の確保や生育不良樹の発生等、新たな課題も出てきている。	・JAコスモスの基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ)の栽培面積、生産者数の増加と栽培技術の向上による販売額の増加 ・山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保、加工品の検討	◆安定的な生産体制の維持と栽培技術の向上 ◆山椒の安定的な生産の確立、加工品の開発と販売

修正前



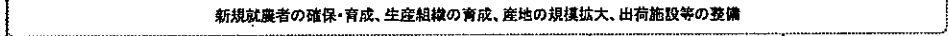
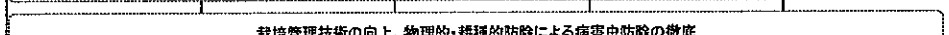


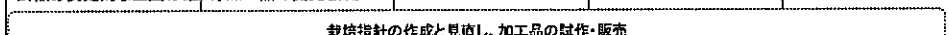


項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
2地域を支える基幹品目の振興 《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》	中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。	・JAコスモス ・越知町山椒生産組合	・栽培技術の向上、安定的な生産の維持(H21～26) ◆ニラでは施設整備による生産体制が整いつつある。また、新規就農者や新規栽培者の確保・育成も行われており、今後の販売額増加が期待される。 ピーマンでは適期苗定植や病害虫防除など、基本技術徹底の必要性が理解された。 ショウガでは土壌消毒剤としてダゾメット剤とクロルピクリンが定着してきた。 ・山椒の安定的な栽培技術の確立、加工品の開発と販売(H21～26) ◆さび病防除対策の目途を立てることができた。収穫作業労力の確保や生育不良樹の発生等、新たな課題も出てきている。	・JAコスモスの基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ)の栽培面積、生産者数の増加と栽培技術の向上による販売額の増加 ・山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保、加工品の検討	◆安定的な生産体制の維持と栽培技術の向上 ◆山椒の安定的な生産の確立、加工品の開発と販売

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					ニラ出荷量 (H22:573t)	650t
安定的な生産体制の維持と栽培技術の向上 					ピーマン出荷量 (H22:245t)	270t
新規就農者の確保・育成、生産組織の育成、産地の規模拡大、出荷施設等の整備 					ショウガ出荷量 (H22:882t)	950t
栽培管理技術の向上、物理的・耕種的防除による病害虫防除の徹底 					食用山椒出荷量 (H22:30t)	32t
						
山椒の安定的な生産の確立、加工品の開発と販売 						
栽培指針の作成と見直し、加工品の試作・販売 						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					ニラ出荷量 (H22:573t)	650t
安定的な生産体制の維持と栽培技術の向上 					ピーマン出荷量 (H22:245t)	270t
新規就農者の確保・育成、生産組織の育成、産地の規模拡大、出荷施設等の整備 					ショウガ出荷量 (H22:882t)	950t
栽培管理技術の向上、物理的・耕種的防除による病害虫防除の徹底 					食用山椒出荷量 (H22:30t)	32t
						
山椒の安定的な生産の確立、加工品の開発と販売 						
栽培指針の作成と見直し、加工品の試作・販売 						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
4力強い高糖度トマト産地の確立 《仁淀川町、佐川町、日高村》	高糖度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。	・JAコスモス ・JAコスモストマト生産部会	・高糖度トマトの産地間競争力の強化(H21～23) ◆食の安全・安心への取組強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化、産地コンセプト活用によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化、特★(トクホ)商材の販促活動への取り組みにより販売単価は向上した。	・産地コンセプトを理解し実践できる農業者の育成 ・安定生産のための栽培技術向上 ・他産地商品との差別化した販売戦略の展開	◆人材育成及び産地の体制づくり ◆栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底 ◆集出荷施設の整備 ◆新商品の販路開拓

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
4力強い高糖度トマト産地の確立 《仁淀川町、佐川町、日高村》	高糖度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。	・JAコスモス	・高糖度トマトの産地間競争力の強化(H21～23) ◆食の安全・安心への取組強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化、産地コンセプト活用によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化、販促活動への取り組みにより販売単価は向上した。	・産地コンセプトを理解し実践できる農業者の育成 ・安定生産のための栽培技術向上 ・他産地商品との差別化した販売戦略の展開	◆人材育成及び産地の体制づくり ◆栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底 ◆集出荷施設の整備 ◆新商品の販路開拓

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
人材育成及び産地の体制づくり 生産部会各班の主体的な活動の活性化、新規就農者の確保・育成、産地の規模拡大					高糖度トマトの販売額 (H19:4.2億円) (H22:3.7億円)	5.1億円
栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底 安定生産に向けた高糖度トマト栽培管理技術の向上、物理的・耕種的防除による病害虫防除の徹底						
集出荷施設の整備 光センサー等の高度化に向けた計画の作成						
HP等の活用による消費者の囲い込み、地域ネットワークの活用、パートナーシップ店の開拓、消費者ニーズ調査						
(空欄)						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
人材育成及び産地の体制づくり 生産部会各班の主体的な活動の活性化、新規就農者の確保・育成、産地の規模拡大					高糖度トマトの販売額 (H19:4.2億円) (H22:3.7億円)	5.1億円
栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底 安定生産に向けた高糖度トマト栽培管理技術の向上、物理的・耕種的防除による病害虫防除の徹底						
集出荷施設の整備 光センサー等の高度化に向けた計画の作成 施設設備の導入・高度化						
新商品の販路開拓 HP等の活用による消費者の囲い込み、地域ネットワークの活用、パートナーシップ店の開拓、消費者ニーズ調査						
(空欄)						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発 【いの町】	いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。	・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町	・生産体制の強化と販路拡大(H21～23) ◆飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。平成23年秋より新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。 ◆24年度、ゆうパック秋冬ギフトに掲載され販売数が増加した。また、アドバイザーから顧客ニーズに合ったパッケージ商品について助言をいただき、きじスープをメインにしたパッケージ商品の開発がされ、首都圏百貨店でネット販売が開始された。 ◆25年度は一年中販売できる商品として、生ハムの商品化の目処が立った。	・需要に対応した安定的な生産体制 ・需要増加に対応できる加工処理設備 ・販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)	◆生産体制の強化 ◆販売の安定化と販路の開拓
修正前					



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
12本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発 【いの町】	いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。	・本川手箱きじ生産企業組合 ・いの町	・生産体制の強化と販路拡大(H21～23) ◆飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。(H23) ◆ゆうパック秋冬ギフトに掲載され販売数が増加した。また、アドバイザーから顧客ニーズに合ったパッケージ商品について助言をいただき、きじスープをメインにしたパッケージ商品の開発がされ、首都圏百貨店でネット販売が開始された。(H24) ◆一年中販売できる商品として、生ハムの商品化の目処が立った。(H25) ◆組織体制を強化するために企業組合化した。(H26) ◆周年用商品として、新商品「きじ重」を開発し高知市内料理店でリニューアルした。(H26) ◆増産に向けた処理加工施設の設備の改修を実施した。(いの町事業)(H26)	・需要に対応した安定的な生産体制 ・需要増加に対応できる加工処理設備 ・販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)	◆生産体制の強化 ◆販売の安定化と販路の開拓
修正後					

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の強化					→	本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)	6,800羽
生産から販売及び経営までを検討する定例会の開催							
安定した飼養技術の習得							
増産に向けた施設・設備等の整備							
販売の安定化と販路の開拓					→		
市場調査と顧客ニーズに対応した商品の開発							
			新商品販出に対応する設備等の検討及び導入				
カタログ販売・ネット販売への展開							
各種イベントでのPR、商談会参加による販路拡大							
安定した販路の確保と新規販路の開拓							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の強化					→	販売額 (H25:7,444千円)	13,580千円
生産から販売及び経営までを検討する定例会の開催							
安定した飼養技術の習得		最先鋭家を増やし生産量拡大					
			増産に向けた施設・設備等の整備				
					企業組合(法人化)による組織体制の強化		
販売の安定化と販路の開拓					→	本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)	6,800羽
市場調査と顧客ニーズに対応した商品の開発							
カタログ販売・ネット販売への展開							
各種イベントでのPR、商談会参加による販路拡大							
安定した販路の確保と新規販路の開拓							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
14 特用林産物の販売拡大 《仁淀川地域全域》	特用林産物(シキミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う。	・JAコスモス ・仁淀川森林組合 ・特用林産物生産者	・シキミ、サカキの生産の拡大と品質向上への取組(H21～25) ・竹炭、マッシュルームの商品販売拡大への取組(25) ◆栽培指針の作成、生産実態調査、現地研修会、目慣らし会、病虫害防除研修会等の取組により品質が向上し生産量の増大が図られ、生産者の所得向上が図られた。	・生産量の増加 ・販売価格の向上	◆生産者・栽培地の拡大 ◆流通体制の整備 ◆新たな特用林産物への取組

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 特用林産物の販売拡大 《仁淀川地域全域》	特用林産物(シキミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う。	・JAコスモス ・仁淀川森林組合 ・特用林産物生産者	・シキミ、サカキの生産の拡大と品質向上への取組(H21～25) ・竹炭、マッシュルームの商品販売拡大への取組(H25、26) ◆栽培指針の作成、生産実態調査、現地研修会、目慣らし会、病虫害防除研修会等の取組により品質が向上し生産量の増大が図られ、生産者の所得向上が図られた。	・生産量の増加 ・販売価格の向上	◆生産者・栽培地の拡大 ◆流通体制の整備 ◆新たな特用林産物への取組

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産者・栽培地の拡大					シキミ・サカキの出荷量 (H19 22t) (H22 30t)	32t
生産者・栽培地の拡大及び栽培指導						
流通体制の整備					竹炭の出荷量 (H22 20t)	25t
流通体制の整備への取組						
新たな特用林産物への取組						
新たな特用林産物への取組						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産者・栽培地の拡大					シキミ・サカキの出荷量 (H19 22t) (H22 30t)	32t
生産者・栽培地の拡大及び栽培指導						
流通体制の整備					マツシュルームの出荷量 (H25 9.5t)	11t
流通体制の整備への取組						
新たな特用林産物への取組						
新たな特用林産物への取組						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10「土佐和紙」の販売促進と保存・継承 【土佐市、いの町】	地域の伝統産業である土佐和紙は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、販路や新しい手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、酒具職人、福祉施設等のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。 機械すき和紙については、川添拡大に向け、製法改良やマッティング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。	・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・inos.net 会	・土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21～23) ◆製紙業やデフレ等の要因で、製紙業全体が大転落に陥り、土佐和紙の知名度の向上、下落の一途を辿っていた販売促進の強化や販路拡大、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという意識の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、酒類のフェム、ふるさと博覧会等) ◆販路に広がった普通用紙事業の復活や、新規若手職人の誕生により、今後の売上げ伸びや販路増加に期待ができる。 -「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取組(H24～25) ◆「土佐和紙」の保存・継承のために効果的な取組について職人へのヒアリングを行った結果、販売促進が重要であることが明らかになった。そのため、大消費地の新たな販路の開拓に向けて営業活動を開始した。 ◆チラシプリントの印刷版「土佐白食紙」を開発し、県内外に販売を開始した。 ◆県工会在25年度に国の全国展開事業の補助金を導入し、中心市街地活性化のための計画策定に取り組んでいる。その中の課題として、職の継承者を求めて新しい職の文化を発信する方向で検討を始めた。	・土佐和紙職人の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。 ・商品(土佐和紙)としても販路のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略の構築が必要。 ・手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、羽子絵、納豆紙、かんび紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにする必要がある。 ・日本3大和紙である、土佐和紙の産地として地域が一体となって、新しい職の文化を発信できる仕組みづくりが必要。 ・原料生産の後継者の育成が必要。	◆「土佐和紙」の販路拡大に向けた取組 ◆機械すき和紙の異業種との連携やマッティング等の取組

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10「土佐和紙」の販売促進と保存・継承 【土佐市、いの町、且高村】	地域の伝統産業である土佐和紙は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、販路や新しい手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、酒具職人、福祉施設等のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。 機械すき和紙については、川添拡大に向け、製法改良やマッティング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。	・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・inos.net 会	・土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21～23) ◆製紙業やデフレ等の要因で、製紙業全体が大転落に陥り、土佐和紙の知名度の向上、下落の一途を辿っていた販売促進の強化や販路拡大、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという意識の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、酒類のフェム、ふるさと博覧会等) ◆販路に広がった普通用紙事業の復活や、新規若手職人の誕生により、今後の売上げ伸びや販路増加に期待ができる。 -「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取組(H24～26) ◆「土佐和紙」の保存・継承のために効果的な取組について職人へのヒアリングを行った結果、販売促進が重要であることが明らかになった。そのため、大消費地の新たな販路の開拓に向けて営業活動を開始した。 ◆チラシプリントの印刷版「土佐白食紙」を開発し、県内外に販売を開始した。 ◆県工会在25年度に国の全国展開事業の補助金を導入し、中心市街地活性化のための計画策定に取り組んでいる。その中の課題として、職の継承者を求めて新しい職の文化を発信する方向で検討を始めた。 ◆県工会在が呼びかけ、観光協会、県の博物館、事業者等が連携して進めている中心市街地活性化プロジェクトの中で、県のまちづくり委員会及び土佐和紙職人市を策定し、県の博物館を核として販路を盛り上げていく取組が決定した。(H28)	・土佐和紙職人の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。 ・商品(土佐和紙)としても販路のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略の構築が必要。 ・手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、羽子絵、納豆紙、かんび紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにする必要がある。 ・日本3大和紙である、土佐和紙の産地として地域が一体となって、新しい職の文化を発信できる仕組みづくりが必要。 ・原料生産の後継者の育成が必要。 ・職のまちづくり委員会及び土佐和紙職人市の策定が課題	◆「土佐和紙」の販路拡大に向けた取組 ◆機械すき和紙の異業種との連携やマッティング等の取組

修正後

第2期計画					内容及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	項目	目標値(H27)
「土佐和紙」の販路拡大に向けた取組 機械すき和紙の異業種との連携やマッチング等の取組					土佐和紙の販売額 (H19:1.6億円) (H22:6.6億円) ・機械すき5.4億円 ・手すき 1.2億円	6.6億円 (現状の確保)
土佐和紙をPRするキーマン(協賛的営業マン)の育成による販路拡大						
土佐和紙を活用した魅力ある商品の開発と既存商品のブラッシュアップ						
紙の新しい形としての販売製品づくり (いの風の充実・販売強化、Freejetの細紙強化等)						
ネット販路の充実・強化に向けた取組						
新たな土佐和紙ネット販売サイトの構築						
土佐和紙ネット販売サイトを開設						
土佐和紙のPRのための原紙の見本帳・和紙製品のカタログの作成および定期的な更新						
土佐和紙のニーズ、売れ筋商品の把握(市場調査等)ができるシステムの構築の取組						
製紙会社の専業情報(製造品種)の収集及び紙種別やHP等による情報発信の取組						
マッチング(展示会)等異業種連携強化に向けた取組の取組						
「国際展開トリエンナーレ」の開催に向けたイベントの取組及びPRの実施						
「国際展開トリエンナーレ」の開催に併せたイベントの開催						
「土佐和紙」の保存・継承に向けた取組						
土佐和紙へ興味のある若者や女性等に、知識、技術等を総合的に学ぶ長期的な人材育成プログラムを実施(土佐和紙サポーターを養成)						
福祉施設等の確保と新たな育成を図るための講習会の実施及び手すき職人との連携等の支援体制の整備						
若手の土佐和紙手すき和紙職人、道具職人の人材育成と、高度な技術の伝承のための仕組みづくりとその実施						
異業種連携センターと手すき和紙職人の連携強化 (新商品の開発や市場調査、技術の伝承等)						



第2期計画					内容及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	項目	目標値(H27)
「土佐和紙」の販路拡大に向けた取組 機械すき和紙の異業種との連携やマッチング等の取組					土佐和紙の販売額 (H19:1.6億円) (H22:6.6億円) ・機械すき5.4億円 ・手すき 1.2億円	6.6億円 (現状の確保)
土佐和紙をPRするキーマン(協賛的営業マン)の育成による販路拡大						
土佐和紙を活用した魅力ある商品の開発と既存商品のブラッシュアップ						
紙の新しい形としての販売製品づくり (いの風の充実・販売強化、Freejetの細紙強化等)						
ネット販路の充実・強化に向けた取組						
新たな土佐和紙ネット販売サイトの構築						
土佐和紙ネット販売サイトを開設						
土佐和紙のPRのための原紙の見本帳・和紙製品のカタログの作成および定期的な更新						
土佐和紙のニーズ、売れ筋商品の把握(市場調査等)ができるシステムの構築の取組						
製紙会社の専業情報(製造品種)の収集及び紙種別やHP等による情報発信の取組						
マッチング(展示会)等異業種連携強化に向けた取組の取組						
「国際展開トリエンナーレ」の開催に向けたイベントの取組及びPRの実施						
「国際展開トリエンナーレ」の開催に併せたイベントの開催						
紙の種別別30周年記念事業(ウェブサイトの内容改定及び実施)						
「土佐和紙」の保存・継承に向けた取組						
土佐和紙へ興味のある若者や女性等に、知識、技術等を総合的に学ぶ長期的な人材育成プログラムを実施(土佐和紙サポーターを養成)						
福祉施設等の確保と新たな育成を図るための講習会の実施及び手すき職人との連携等の支援体制の整備						
若手の土佐和紙手すき和紙職人、道具職人の人材育成と、高度な技術の伝承のための仕組みづくりとその実施						
異業種連携センターと手すき和紙職人の連携強化 (新商品の開発や市場調査、技術の伝承等)						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
17集客施設を核にした高岡地区の活性化 (土佐市)	サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。	・土佐市商店街活性化推進協議会等	・基本計画の策定(H23) ◆集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。 ◆高岡商店街集客施設『ドラゴン広場』オープン(H25.3未プレ、H25.4正式オープン)	・集客施設の安定的な運営	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり
修正前					



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
19集客施設を核にした高岡地区の活性化 (土佐市)	サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。	・土佐市商店街活性化推進協議会等	・基本計画の策定(H23) ◆集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。 ◆高岡商店街集客施設『ドラゴン広場』オープン(H25.3未プレ、H25.4正式オープン) ・集客施設の安定した運営(H26～) ◆土佐市、商工会、JA等の関係者でドラゴン広場運営協議会を立ち上げ、運営改善に向けた協議を実施している。	・集客施設の安定的な運営	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり
修正後					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり					施設直販市での販売額	79,000千円
乗客施設の整備、オープン		乗客施設の安定した運営				
観光案内、情報発信						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり					施設直販市での販売額	79,000千円
乗客施設の整備、オープン		経営改善による乗客施設の安定した運営				
観光案内、情報発信						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
19 地域産品を活用した 冷凍等の製造販売 (いの町)	地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。	一保高知アイス	-生産体制および品質管理の強化(H22～24) -商品開発および販路拡大(H22～25) ◆開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時に生産体制を強化するための施設整備を整備しており、増産が円滑にできた。また、平成22年度には香港でアイスクリームの販売許可を取得することができ、平成23年度には海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組みなどしており、今後の販路拡大が見込まれる。 ◆24年度は給水設備の改良、商品表示ラベルプリンター導入、表示義務栄養成分検査、商標登録申請、PR用ソフト制作を行い、安定した生産と海外での販路開拓に結びついた。 また、工場視察等の増員に対応するための直営売店の改修を行い、売店の売上高が前年より大幅に増加するとともに、仁淀川観光のスポットとなった。 ◆25年度、アイスクリーム飲料メーカーで四国初のハラール認証を受けたことによりマレーシアでの販路もでき、日本国内でのハラール商品の取組も始まった。	-周年販売を目指し、海外市場の販路拡大 -顧客ニーズへの対応	◆冷凍等製造施設設備の整備 ◆販路拡大・販売促進 ◆商品開発 ◆観光客や工場見学者等への販売強化

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 地域産品を活用した 冷凍等の製造販売 (いの町)	地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。	一保高知アイス	-生産体制および品質管理の強化(H22～24) -商品開発および販路拡大(H22～26) ◆開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時に生産体制を強化するための施設整備を整備しており、増産が円滑にできた。また、香港でアイスクリームの販売許可を取得することができた。(H22) ◆海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組みなどしており、今後の販路拡大が見込まれる。(H23) ◆給水設備の改良、商品表示ラベルプリンター導入、表示義務栄養成分検査、商標登録申請、PR用ソフト制作を行い、安定した生産と海外での販路開拓に結びついた。 また、工場視察等の増員に対応するための直営売店の改修を行い、売店の売上高が前年より大幅に増加するとともに、仁淀川観光のスポットとなった。(H24) ◆アイスクリーム飲料メーカーで四国初のハラール認証を受けたことによりマレーシアでの販路もでき、日本国内でのハラール商品の取組も始まった。(H25) ◆売店の増築及び冷蔵設備の整備、工場視察用施設(見学通路)の設置を行い、観光客向けの販売を強化した。(H26) ◆冷凍設備増設、貯蔵庫及び冷凍設備の増設により、海外向けの出荷体制の強化を図るとともに、未開拓地である中東地域(UAE)での市場調査や商談会出席、包装デザイン制作により国内外の販路開拓に繋がった。(H26)	-周年販売を目指し、海外市場の販路拡大 -顧客ニーズへの対応	◆冷凍等製造施設設備の整備 ◆販路拡大・販売促進 ◆商品開発 ◆観光客や工場見学者等への販売強化

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	計画		目標値(H27)		
冷凍等製造施設設備の整備 新商品製造に対応する設備の検討及び導入					増産体制に対応する設備の検討及び導入		冷凍等の販売額 (H22:3.75億円)	4.37億円
販売拡大・販売促進					海外での展示・商談会への参加			
海外向けインターネットHPの内容検討・改良					海外商談会用プロモーションビデオの検討・制作			
商品開発					顧客に対応した商品開発の強化			
観光客や工場見学者等への販売強化					観光スポットとしてのPRと直営売店独自の商品開発の検討・実施			
直営売店の拡張					直営売店の拡張			



第2期計画					H28以降	指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	計画		目標値(H27)		
冷凍等製造施設設備の整備 新商品製造に対応する設備の検討及び導入					増産体制に対応する設備の検討及び導入		冷凍等の販売額 (H22:3.75億円)	4.47億円
販売拡大・販売促進					海外での展示・商談会への参加			
海外向けインターネットHPの内容検討・改良 ハラル認証の取得					海外商談会用プロモーションビデオの検討・制作			
商品開発					顧客に対応した商品開発の強化			
観光客や工場見学者等への販売強化					季節商品以外の商品開発			
直営売店の拡張					直営売店の拡張			
工場見学者等の整備					工場見学者等の整備			

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
25直販市の機能強化 (生産・出荷の拡大及び 観光情報発信等)による 地域の活性化 【日高村】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	直販市「さんさん市」を拠点 として整備し、周辺の観光 資源と連携した活用を図る ことで、日下川調整池周辺 での観光振興につなげる。	・日高村	・交流人口の拡大のための条件 整備(H21~24) ・施設の整備(H25~) ◆平成21年度に産業振興アドバ イザーにより日高村の観光資源 活用調査事業を実施し、エリアご との活用案を取りまとめた。その 後、ボランティアガイド組織の立上 げやガイド育成、モニターツアー の実施等、具体的な取組を進めて きた。	・地域の農産物・農産加 工品販売所としての運 営体制等の検討、観光 情報発信拠点としての 機能充実	◆直販市の機能強化 及び観光情報の発信



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
27直販市の機能強化 (生産・出荷の拡大及び 観光情報発信等)による 地域の活性化 【日高村】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	直販市「さんさん市」を拠点 として整備し、周辺の観光 資源と連携した活用を図る ことで、日下川調整池周辺 での観光振興につなげる。	・日高村 ・細村の駅ひだか	・交流人口の拡大のための条件 整備(H21~24) ◆平成21年度に産業振興アドバ イザーにより日高村の観光資源 活用調査事業を実施し、エリアご との活用案を取りまとめた。その 後、ボランティアガイド組織の立上 げやガイド育成、モニターツアー の実施等、具体的な取組を進めて きた。 ・施設の整備(H25~) ◆産振総合補助金を活用した直 販所「 <u>細村の駅ひだか</u> 」(新名称)が H27.11.16にリニューアルオープン (11.1~プレオープン)	・地域の農産物・農産加 工品販売所としての運 営体制等の検討、観光 情報発信拠点としての 機能充実 ・商品の品揃えと販売 の仕組みの磨き上げ	◆直販市の機能強化 及び観光情報の発信

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
直販市の機能強化及び観光情報の発信					施設での販売額等 (H23:59,126千円)		103,200千円
集客施設の整備、オープン			集客施設の安定した運営				
観光情報パンフレットの作成及び啓発			観光案内、情報発信				



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
直販市の機能強化及び観光情報の発信					施設での販売額等 (H23:59,126千円)		103,200千円
施設の整備、オープン			施設の安定した運営				
観光情報パンフレットの作成及び啓発			観光案内、情報発信				

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 《仁淀川地域全域》	仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交通人口の拡大を図る。 また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販促促進を図るなど、観光と観光産業を組み合わせる観光産業化を推進する。	仁淀川地域観光協議会 いの町観光協会 越知町観光協会 さかわ観光協会 土佐市 いの町 仁淀川町 佐川町 越知町 日高村	「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした広域観光の推進(H22～) ◆広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立(H22) ◆仁淀川地域観光協議会の設立以降、旅行商品の企画と旅行会社への売り込みによるツアー達成は、積極的に実績数を伸ばしている。 ◆また、屋形船の運航(日高村)や、河原でのパーベキューサービスクラス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。 ◆主要観光施設への入込客数も前年比で増加しているほか、カヌーやラフティングの参加者数、ツアー達成の実績数なども順調に増加している。 Oツアーの旅行 H23:30ツアーで483人 H24:110ツアーで2,477人	・市町村や観光団体の意識の醸成 ・取組ふるさと雇用事業終了後の運営財源の確保 ・ツアー達成で取り上げてもらえる地域内の観光資源を掘り起こし継続的な顧客へつなげる	◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物産情報の発信 ◆観光客の誘致 ◆観光資源の旅行商品化 ◆物産品開発と販売促進 ◆仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 《仁淀川地域全域》	仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交通人口の拡大を図る。 また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販促促進を図るなど、観光と観光産業を組み合わせる観光産業化を推進する。	仁淀川地域観光協議会 いの町観光協会 越知町観光協会 さかわ観光協会 土佐市 いの町 仁淀川町 佐川町 越知町 日高村	「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした広域観光の推進(H22～) ◆広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立(H22) ◆仁淀川地域観光協議会の設立以降、旅行商品の企画と旅行会社への売り込みによるツアー達成は、積極的に実績数を伸ばしている。 ◆また、屋形船の運航(日高村)や、河原でのパーベキューサービスクラス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。(H24) ◆主要観光施設への入込客数も前年比で増加しているほか、カヌーやラフティングの参加者数、ツアー達成の実績数なども順調に増加している。 Oツアーの旅行 H23:30ツアーで663人 H24:110ツアーで2,477人 H25:149ツアーで3,888人	・市町村や観光団体の意識の醸成 ・ツアー達成で取り上げてもらえる地域内の観光資源を掘り起こし継続的な顧客へつなげる ・中長期計画を策定し、目標の達成に向けた旅行商品化等の取組及び組織体制の強化	◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物産情報の発信 ◆観光客の誘致 ◆観光資源の旅行商品化 ◆物産品開発と販売促進 ◆仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組

修正後

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	項目	目標値(H27)	
「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物産情報の発信					仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数 (H23:500人)		730人 (年10%アップ)
地域情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)					公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19:52,156人) (H22:52,902人)		
レベルアップや品質向上のための研修会等の実施(仁淀川地域観光情報員や各市町村担当職員を対象とした研修会、講習会の実施)					主要観光施設の入込数 (H19:136,380人) (H22:135,029人)		140,000人
広域観光案内(来訪や電話による問合への対応、地味のお勧め情報の提供)							
観光客の誘致							
旅行商品や観光資源等のプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)							
観光関係調査の実施(モニターツアー等によるアンケート調査の実施、指標や設定目標、効果測定のために把握する必要がある基礎数値の調査)							
観光資源の旅行商品化							
観光資源の発掘と磨き上げ(各市町村や観光関係団体による観光資源の発掘や体験プログラム等の磨き上げ、体験プログラム実施体制の整備等)							
旅行商品化への取組(ターゲット別、テーマ別などに観光資源を組み合わせた周遊ツアーの達成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の達成)							
物産品開発と販売促進							
地域物産品の商品開発とPR							
仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組							
運営財源の確保及び組織体制の検討					安定した運営の実施		



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	項目	目標値(H27)	
「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物産情報の発信					仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数 (H23:500人)		730人 (年10%アップ)
地域情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)					公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19:52,156人) (H22:52,902人)		
レベルアップや品質向上のための研修会等の実施(仁淀川地域観光情報員や各市町村担当職員を対象とした研修会、講習会の実施)					主要観光施設の入込数 (H19:136,380人) (H22:135,029人)		140,000人
広域観光案内(来訪や電話による問合への対応、地味のお勧め情報の提供)							
観光客の誘致							
旅行商品や観光資源等のプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)							
観光関係調査の実施(モニターツアー等によるアンケート調査の実施、指標や設定目標、効果測定のために把握する必要がある基礎数値の調査)							
観光資源の旅行商品化							
観光資源の発掘と磨き上げ(各市町村や観光関係団体による観光資源の発掘や体験プログラム等の磨き上げ、体験プログラム実施体制の整備等)							
旅行商品化への取組(ターゲット別、テーマ別などに観光資源を組み合わせた周遊ツアーの達成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の達成)							
物産品開発と販売促進							
地域物産品の商品開発とPR							
仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組							
運営財源の確保及び組織体制の検討、虫反則社運の安定					安定した運営の実施		

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
30 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり (いの町)	いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。 「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。	いの町 いの町観光協会 いの町商工会 ロハスなむさび の里づくり協議会 土佐和紙工芸村ほか	体験型観光の推進(H21~25) ◆平成22年度の仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。 ◆平成23年度にNHK高知放送局80周年記念として、仁淀川特集が全国放送され、注目度が上がった事をきっかけとして、平成24~25年度に受け入れ態勢の充実及び、新しい体験メニューづくりを行い、いの町に訪れる観光客の増加、地域経済の活性化に結び付けた。	ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域をあげて取り組む組織体制の整備が必要。 -従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築や地域の資源を活かした特産品の開発等が必要。 -イベント、体験型観光及び地域資源を活かした特産品を一体的に整備しアピールすることにより、観光客が地域にお金を落とす仕組みを構築することが必要。	◆体験型観光のメニューづくりと推進 ◆「グリーンパークほどの」の環境学習の場としての活用

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
32 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり (いの町)	いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。 「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。	いの町 いの町観光協会 いの町商工会 ロハスなむさび の里づくり協議会 土佐和紙工芸村ほか	体験型観光の推進(H21~26) ◆仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。(H22) ◆NHK高知放送局80周年記念として、仁淀川特集が全国放送(H23)され、注目度が上がった事をきっかけとして、受け入れ態勢の充実及び、新しい体験メニューづくりを行い、いの町に訪れる観光客の増加、地域経済の活性化に結び付けた。(H24~28)	ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域をあげて取り組む組織体制の整備が必要。 -従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築や地域の資源を活かした特産品の開発等が必要。 -イベント、体験型観光及び地域資源を活かした特産品を一体的に整備しアピールすることにより、観光客が地域にお金を落とす仕組みを構築することが必要。	◆体験型観光のメニューづくりと推進 ◆「グリーンパークほどの」の環境学習の場としての活用

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
体験型観光のメニューづくりと推進					いの町内の公共施設の利用者数 (H22:約450,000人)	500,000人 (10%アップ)
既存の体験メニューの人材育成と事業体制の強化						
幅広い世代向けの体験型観光メニューの開発と既存メニューのブラッシュアップ	新たな体験型観光メニューのモニター実施	新たな体験型観光メニューの本格実施				
3つの道の駅での連携強化(情報の共有化等)の検討	観光施設を連携したシステムの構築					
水辺利用率の高い淀川を活用した「川の家」の検討	「川の家」の実施計画策定	「川の家」の開業に向けた取組				
地域資源を活かした特産品(食・工芸品等)づくり						
地域資源を活かした新商品の開発						
地域資源の発掘及び新たな商品開発に関する検討	商品に関するストーリー構築等の検討	新商品のマーケティング・PR方法の検討及び実施による市場の拡大				
既存商品などのイベントへの出店及び商談会等のマッチングの機会拡大による販路の開拓						
ネット販売活用に関する検討及び開発	ネット販売の充実及び拡大に向けた検討及び実施					
既存商品の選別による販売方法検討と販路拡大						
「グリーンパークほのの」の環境学習の場としての活用						
<ul style="list-style-type: none"> 宿泊体験プログラムの内容強化充実 研修参加企業へのPR及び参加募集 体験教育の実践・PR及び参加募集 自然エネルギーの活用・研究(小水力・風力・太陽光・木材など) 						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
体験型観光のメニューづくりと推進					体験受人数 (H25:6,642人)	7,220人
既存の体験メニューの人材育成と事業体制の強化					体験料収入 (H25:17,885千円)	23,807千円
幅広い世代向けの体験型観光メニューの開発と既存メニューのブラッシュアップ	新たな体験型観光メニューのモニター実施	新たな体験型観光メニューの本格実施			いの町内の公共施設の利用者数 (H22:約450,000人)	500,000人 (10%アップ)
3つの道の駅での連携強化(情報の共有化等)の検討	観光施設を連携したシステムの構築					
水辺利用率の高い淀川を活用した「川の家」の検討	「川の家」の実施計画策定	「川の家」の開業に向けた取組				
地域資源を活かした特産品(食・工芸品等)づくり						
地域資源を活かした新商品の開発						
地域資源の発掘及び新たな商品開発に関する検討	商品に関するストーリー構築等の検討	新商品のマーケティング・PR方法の検討及び実施による市場の拡大				
既存商品などのイベントへの出店及び商談会等のマッチングの機会拡大による販路の開拓						
ネット販売活用に関する検討及び開発	ネット販売の充実及び拡大に向けた検討及び実施					
既存商品の選別による販売方法検討と販路拡大						
「グリーンパークほのの」の環境学習の場としての活用						
<ul style="list-style-type: none"> 宿泊体験プログラムの内容強化充実 研修参加企業へのPR及び参加募集 体験教育の実践・PR及び参加募集 自然エネルギーの活用・研究(小水力・風力・太陽光・木材など) 						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
31 山岳資源を活用した 交流人口の拡大 【いの町】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 100px; text-align: center;">修正前</div>	「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。	・いの町 ・いの町観光協会	・体験メニュー等の開発(H21～25) ◆高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。 ◆冬期資源を活用するためのモニターツアーを開催し、旅行業関係者等から商品化に向けた助言を受けた。	・体験メニュー等の商品化 -商品化に向けての資源の掘り起こし -売り込み先の確保	◆観光施設と連携した体験型観光の推進 ◆新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源) ◆集客に向けての観光施設の検討と整備



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 山岳資源を活用した 交流人口の拡大 【いの町】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 100px; text-align: center;">修正後</div>	「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。	・いの町 ・いの町観光協会	・体験メニュー等の開発(H21～28) ◆高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。 ◆冬期資源を活用するためのモニターツアーを開催し、旅行業関係者等から商品化に向けた助言を受けた。 ◆木川地区の未使用観光施設の活用と観光施設の連携についての助言を受けた。(H28)	・体験メニュー等の商品化 -商品化に向けての資源の掘り起こし -売り込み先の確保	◆観光施設と連携した体験型観光の推進 ◆新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源) ◆集客に向けての観光施設の検討と整備

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
観光施設と連携した体験型観光の推進					→	本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,600人)	71,000人 (5%アップ)
県内・県外(瀬戸内圏)への売り込み・課題の検討		商品の磨き上げと商品の多様化					
木の湯温泉を拠点とした体験観光の検討		体験観光の商品化					
体験観光の試行		体験観光の商品化					
新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)					→		
新たに活用できる資源の検討	新たな体験メニューの検討	体験メニューの試行	体験メニューの商品化				
インストラクターの養成							
乗客に向けての観光施設の検討と整備					→		
施設利用者等の調査と検証		施設の実備					
施設への乗客の計画		施設整備に係る実施計画と設計					



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
観光施設と連携した体験型観光の推進					→	道の駅木の香・山荘しらすの利用者数 (H26:55,482人)	57,000人
県内・県外(瀬戸内圏)への売り込み・課題の検討		商品の磨き上げと商品の多様化					
木の湯温泉を拠点とした体験観光の検討		体験観光の商品化					
体験観光の試行		体験観光の商品化					
新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)					→	本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,600人)	71,000人 (5%アップ)
新たに活用できる資源の検討	新たな体験メニューの検討	体験メニューの商品化					
インストラクターの養成							
乗客に向けての観光施設の検討と整備					→		
施設利用者等の調査と検証		施設の実備					
施設への乗客の計画		施設整備に係る実施計画と設計					

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 歴史的風致維持向上計画の推進 《佐川町》	「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、観光資源としての充実を図る。	佐川町 さかわ観光協会 佐川町内の地域づくり関連団体	<ul style="list-style-type: none"> 一体的な歴史的風致の形成への取組(H21~23) 平成21-22年度は、歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図った。 平成23年度には、国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行しながら、取組は継続している。 地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。 平成24年度には、牧野富太郎博士の生家跡に「牧野富太郎ふるさと館」がオープンした。 平成25年度には、旧浜口家住宅を復元し、観光拠点となる「さかわ観光協会」が発足した。年度末には、さかわ文教の町を司る「名教館」が完成し、観光資源としての活用が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組 さかわ観光協会を中心とした、佐川町の物産販売、情報発信や地域で作り込んだ観光の提案を積極的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 一体的な歴史的風致の形成

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
35 歴史的風致維持向上計画の推進 《佐川町》	「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、観光資源としての充実を図る。	佐川町 さかわ観光協会 佐川町内の地域づくり関連団体	<ul style="list-style-type: none"> 一体的な歴史的風致の形成への取組(H21~26) 歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図った。(H21, 22) 国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行(H23) 地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。 牧野富太郎博士の生家跡に「牧野富太郎ふるさと館」がオープン(H25) 一般社団法人さかわ観光協会が設立し、上町地区に復元整備された旧浜口家住宅を拠点に佐川町の観光総合窓口として活動開始。また、さかわ文教の町を司る「名教館」が移築整備された(H25) 旧竹村民具館が佐川町に寄贈され、観光資源としての充実が図られた。(H26) 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組 さかわ観光協会を中心とした、佐川町の物産販売、情報発信や地域で作り込んだ観光の提案を積極的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 一体的な歴史的風致の形成

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
一体的な歴史的風致の形成 浜口邸の整備 牧野富太郎生家の復元整備 歴史的風致地区へのJR客車移設					歴史的風致地区への入込客数	10,000人	
牧野公園の整備 風致地区の探検整備 佐川町歴史的風致維持向上計画協議会における歴史的風致維持向上施設の審議、投資等 佐川町物産・農産ソールの検討 まちの駅を中心とした風致地区の観光活性化事業の実施							
名教館の移設・整備 牧野公園花見棟・売店棟の整備 知的体験型観光メニューの実施							
佐川町の偉人の収蔵資料活用のための施設整備及び運営管理方法等の検討 収蔵資料活用方法の検討、活用メニューの実施など							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
一体的な歴史的風致の形成 浜口邸の整備 牧野富太郎生家の復元整備 歴史的風致地区へのJR客車移設					歴史的風致地区への入込客数	10,000人	
牧野公園の整備 風致地区の探検整備 佐川町歴史的風致維持向上計画協議会における歴史的風致維持向上施設の審議、投資等 佐川町物産・農産ソールの検討 まちの駅を中心とした風致地区の観光活性化事業の実施							
名教館の移設・整備 牧野公園花見棟・売店棟の整備 知的体験型観光メニューの実施							
佐川町の偉人の収蔵資料活用のための施設整備及び運営管理方法等の検討 収蔵資料活用方法の検討、活用メニューの実施など							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
34 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進 【越知町】	情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。	・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など	・観光物産館おち駅の整備(H21～22) ◆「観光物産館おち駅」での農産物の販売高が伸びたことにより、やりがいを感じ始めた農家からの出荷量が増えてきている。 ・体験型観光の推進(H22～) ◆平成23年度から取組を始めたカヌー・ラフティングの体験型観光利用者が増加傾向にあり、今後も交流人口の拡大が期待できる。	・物販販売体制の強化 ・荒天時やシーズンオフに対応する体験型観光メニューの開発 ・団体客の受入に向けたラフティング・インストラクターの養成	◆観光物産館おち駅の利用者拡大のための取組の実施 ◆横倉山等を活用した体験型観光のメニュー開発 ◆継続的なラフティング・インストラクターの養成及び団体向けメニューの開発
修正前					



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
36 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進 【越知町】	情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。	・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など	・観光物産館おち駅の整備(H21～22) ◆「観光物産館おち駅」での農産物の販売高が伸びたことにより、やりがいを感じ始めた農家からの出荷量が増えてきている。 ・体験型観光の推進(H22～) ◆平成23年度から取組を始めたカヌー・ラフティングの体験型観光利用者が増加傾向にあり、今後も交流人口の拡大が期待できる。	・物販販売体制の強化 ・荒天時やシーズンオフに対応する体験型観光メニューの開発 ・団体客の受入に向けたラフティング・インストラクターの養成	◆観光物産館おち駅の利用者拡大のための取組の実施 ◆横倉山等を活用した体験型観光のメニュー開発 ◆継続的なラフティング・インストラクターの養成及び団体向けメニューの開発
修正後					

第2期計画					指標及び目標					
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)				
観光物産館おち駅の利用者拡大のための取組の実施					→	施設での販売額 (H22:5,600万円)	6,000万円			
産直体制の強化、越知名物づくり、県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)										
横倉山等を活用した体験型観光のメニュー開発					→	体験メニューの造成	6メニュー			
案内人養成及び体制づくり										
資料の収集	コースの検討	体験マップの作成	体験メニューの試行	体験メニューの本格実施	→	案内人の養成数	6人			
案内人用テキストの作成	参加者用学習ツールの作成	他の体験メニュー等と組合わせたプログラム開発		県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)						
継続的なラフティング・インストラクターの養成及び団体向けメニューの開発								→	ラフティング・インストラクター数 (H23:6人)	8人
ラフティング・インストラクター養成講座の実施										
団体向けのメニュー検討	モニターツアーの実施	県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)								



第2期計画					指標及び目標					
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)				
観光物産館おち駅の利用者拡大のための取組の実施					→	施設での販売額 (H22:5,600万円)	6,000万円			
産直体制の強化、越知名物づくり、県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)										
横倉山等を活用した体験型観光のメニュー開発					→	体験メニューの造成	6メニュー			
案内人養成及び体制づくり										
資料の収集	コースの検討	体験マップの作成	体験メニューの試行	体験メニューの本格実施	→	案内人の養成数	6人			
案内人用テキストの作成	参加者用学習ツールの作成	他の体験メニュー等と組合わせたプログラム開発		県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)						
継続的なラフティング・インストラクターの養成及び団体向けメニューの開発								→	ラフティング・インストラクター数 (H23:6人)	8人
ラフティング・インストラクター養成講座の実施										
団体向けのメニュー検討	モニターツアーの実施	県内外へのPR(HP、各種媒体の活用)								
拠点整備の検討										



修正項目(案)

【仁淀川地域】



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>35 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>【日高村】</p> <p>修正前</p>	<p>仁淀川沿いエリアでの新たな観光資源につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、乗客力のアップを図り、観光資源につなげる。</p>	<p>・日高村</p>	<p>・交流人口の拡大のための条件整備(H21～25) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用策を取りまとめ、具体的な検討を進める中、仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が求められるところとなり、平成24年5月より屋形船の運航となった。また平成25年5月より3隻運航の開始となった。</p>	<p>・屋形船事業の知名度の向上 ・冬期(減客期)の集客に向けた対策の検討</p>	<p>◆屋形船の運行に向けた取組</p> <p>◆物産販売施設等の拠点整備</p>



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>【日高村】</p> <p>修正後</p>	<p>仁淀川沿いエリアでの新たな観光資源につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、乗客力のアップを図り、観光資源につなげる。</p>	<p>・日高村 ・屋形船仁淀川</p>	<p>・交流人口の拡大のための条件整備(H21～26) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用策を取りまとめ、具体的な検討を進める中、仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が求められるところとなり、平成24年5月より屋形船の運航となった。また平成25年5月より3隻運航の開始となった。</p>	<p>・屋形船事業の知名度の向上 ・冬期(減客期)の集客に向けた対策の検討</p>	<p>◆屋形船の運行に向けた取組</p> <p>◆物産販売施設等の拠点整備</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
 屋形船の運行に向けた取組 專業化に向けた準備(実施団体の確定等) 観光ルートの設定、観光メニュー化、ツアー商品化 本格実施及びPRの取組					体験型観光での入込客数	23,500人
					(H22:7,834人)	
 物産販売施設等の拠点整備 周辺施設等の検討及び整備						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
 屋形船の運行に向けた取組 專業化に向けた準備(実施団体の確定等) 観光ルートの設定、観光メニュー化、ツアー商品化 本格実施及びPRの取組					乗船者数	4,500人
					(H25:3,277人)	
 物産販売施設等の拠点整備 周辺施設等の検討及び整備					体験型観光での入込客数	23,500人
					(H22:7,834人)	

修正項目(案)

【仁淀川地域】


項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
36 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化 【日高村】	小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで、小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。	・日高村	・交流人口の拡大のための条件整備(H21～25) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。その後、ボランティアガイド組織の立上げやガイド育成、モニターツアーの実施等、具体的な取組を進めてきた。	・観光交流における大規模な集客方法がない ・国宝に指定された大刀(レプリカ)の常設展示など観光資源の磨き上げ ・域内の観光ガイドの組織化など体制整備	◆ 国宝(大刀)レプリカや展示スペースの整備 ◆ 小村神社周辺の案内看板整備 ◆ 観光PR資材やガイド用教材等の作成


修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化 【日高村】	小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで、小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。	・日高村	・交流人口の拡大のための条件整備(H21～28) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。その後、ボランティアガイド組織の立上げやガイド育成、モニターツアーの実施等、具体的な取組を進めてきた。 ◆「村の駅ひだか」内にH28.11月から国宝に指定された大刀(レプリカ)を展示している。(新国書館完成後に移設の予定)(H28)	・観光交流における大規模な集客方法がない ・国宝に指定された大刀(レプリカ)の常設展示など観光資源の磨き上げ ・域内の観光ガイドの組織化など体制整備	◆ 国宝(大刀)レプリカや展示スペースの整備 ◆ 小村神社周辺の案内看板整備 ◆ 観光PR資材やガイド用教材等の作成

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					体験型観光での入 込客数 (H22:7,834人)	23,500人
国宝(大刀)レプリカや展示スペースの整備 小村神社周辺の案内看板整備 観光PR資材やガイド用教材等の作成						
国宝のレプリカ等の作製 方法・保管場所・管理方 法・管理主体等について関 係機関との協議	レプリカの作製・保管場所 の整備・常設展示の開始	観光ルートの設定、周辺整備、観光メニュー化、ツアー商品化				
観光ボランティアガイドの育 成研修の実施	観光客の受入					
観光ルートの設定、観光資源の掘り起し						

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					体験型観光での入 込客数 (H22:7,834人)	23,500人
国宝(大刀)レプリカや展示スペースの整備 小村神社周辺の案内看板整備 観光PR資材やガイド用教材等の作成						
国宝のレプリカ等の作製 方法・保管場所・管理方 法・管理主体等について関 係機関との協議	レプリカの作製・保管場所の整備・常設展示の開始					
観光ボランティアガイドの育 成研修の実施	観光客の受入					
観光ルートの設定、観光資源の掘り起し						

